

・過去事業

2022 年

2015 年度に実施した一般撮影分野の再調査を実施しました

今回は Japan DRLs 改訂に伴い、一般撮影領域における線量調査（第二弾）を行い、2015 年からの線量分布の推移、また現状の線量分布の把握を行いました。

2021 年 4 月 18 日 本会活動成果の原著論文が掲載されました。

神奈川県放射線技師会は 2016 年度に実施した CT 領域の線量調査結果に基づいた原著論文「神奈川 CT アンケート調査における線量低減に対する逐次近似画像再構成法の寄与 - Contribution of Iterative Reconstruction to Dose Reduction in Kanagawa CT Questionnaire Survey」（筆頭著者：小川泰良、聖マリアンナ医科大学病院）が日本診療放射線技師会雑誌 2021 年度 4 月号に掲載されました。

次近似法 (IR) は CT の線量低減に寄与すると考えられていますが、実際には線量低減効果は限定的でした。IR の開発や使い方の発展に貢献することを期待しています。

平成 30 年度 神奈川県下における IVR・血管造影領域の線量調査

・医療被ばく最適化推進事業（KANAGAWA70）とは

平成 23 年 3 月の東日本大震災に伴う福島第一原発事故は国民の放射線被ばくに対する関心を一層高めました。また、同じ放射線被ばくである放射線診療によって患者等が受ける医療被ばくも世界的に最適化が課題になっております。このような中、平成 27 年 6 月、放射線診療に係るすべての学会、団体等で構成される J-RIME（医療被ばく研究情報ネットワーク）が、All-Japan による診断参考レベル (Diagnostic Reference Level, DRL) を公開しました。この機会に医療被ばく線量の評価と最適化を進めることが必要です。もとより国家資格者である診療放射線技師は放射線診療で照射した線量の評価を行い常に最適化することが求められていると考えております。

そこで、平成 27 年度より本会事業として医療被ばく最適化推進委員会を新設し、放射線診療による医療被ばく線量の評価ならびに最適化を推進する事業を展開することにいたしています。この事業によって神奈川県下の 70%以上の医療機関が医療被ばくの評価と最適化が行われている状態になることを目指します。これを標語として“KANAGAWA70”と称しています。

平成 30 年 10 月 6 日（土）

平成 30 年度 神奈川県下における IVR・血管造影領域の線量調査

平成 30 年 8 月 2 日（木）

2015 年 6 月に J-RIME がわが国で初めて日本としての診断参考レベル (DRLs) を公開しました。本会は同年にいち早く「医療被ばく最適化推進委員会」を新規に立ち上げ、最初の活動として県内の本会会員が在籍する医療機関の一般撮影での撮影条件等のデータや最適化因子等の調査を行いました。

この度、一般撮影の調査結果をまとめた論文が公益社団法人日本放射線技術学会の学会誌 2018 年 5 月号

に掲載されました。論文は下記のサイトからダウンロード可能ですので是非ご確認ください。

https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jjrt/74/5/_contents/-char/ja

論文のタイトルは、「一般撮影の医療被ばくの防護を最適化するためのベンチマークドーズ（BD）の提案」です。この論文の中で、神奈川県内の病院で受ける被ばく線量は、全国調査の線量よりも最適化（低減）され、収束している（医療機関ごとのばらつきが少ない）との結論が得られています。また、DRLsの問題点を改善し、補完する世界初のベンチマークドーズ（BD）という線量指標を提案しています。

平成 29 年 1 月 16 日（月）

平成 28 年度 神奈川県下における CT 検査の線量調査

平成 28 年 10 月 28 日（金）

昨年度（平成 27 年度）に実施した一般撮影分野の追加調査を実施しました。

平成 28 年 9 月 16 日（金）

岐阜市の長良川国際会議場・岐阜都ホテルで開催された第 32 回日本診療放射線技師学術大会において平成 27 年度に実施した一般撮影領域の調査結果を発表しました。

平成 28 年 9 月 15 日（木）

読売新聞の全国版朝刊の医療ルネサンス欄に KANAGAWA70 の活動が記事として掲載されました。平成 28 年 8 月 29 日（月）

平成 27 年度に実施した一般撮影領域の調査結果を県内会員所属全施設に送付しました。